

平成 22 (2010) 年度「NGO 長期スタディ・プログラム」最終報告書記載項目

提出日：2011 年 3 月 14 日

氏名：大月 侑美

所属団体：特定非営利活動法人ソルト・パヤタス

受入先機関名(所在国)：KBCF Operation Pagalingap Foundation, Inc.(フィリピン)

研修期間(全体)：2010 年 12 月 20 日 ~ 2011 年 3 月 14 日

研修テーマ：ストリートチルドレンへの教育や医療、生活改善のための支援を行っている現地 NGO から、子どもたちへのエンパワメント活動を中心に、プログラム・マネジメント、および現場活動のノウハウを学ぶ。

全体研修目標：子どもエンパワメント事業の一環として、ライフスキル教育を導入するにあたり、同じく都市貧困層の子どもであるストリートチルドレンやその保護者に対し、同様の支援活動を実際に行い、既に経験と実績を積んでいる団体 KOPF のもとで、これに資する活動や、その具体的手法、運営方法、評価方法などを学ぶ。

具体的な研修内容：

【12月】ストリートチルドレン支援事業のプロファイリング・ニーズアセスメント

貧困地区において路上で生活する子どもたちが、どのような状況なのか(例えば、家族はいるのか、虐待、ネグレクトのケースなのか、学校に行っているのか等)、またどのような支援を必要としているのかを、クリスマスプレゼントを配りながらニーズアセスメントを行う“Safer Christmas for Street Children”プロジェクトに参加させてもらいながら、新しい事業を始めるにあたっての事業のプランニングの手法を学ぶ。

ストリートファミリーのための Parents Orientation に参加

他団体とのクリスマス合同企画 Safer Christmas for Street Children に参加

【1月】ストリートチルドレン・保護者への Intervention

貧困地区、ストリートで暮らす子どもたちのニーズを把握した後に、学校に通っていない子どもたちを学校に戻す働きかけを行う「介入の手法」を学びながら、同時にストリートチルドレンの保護者への教育を目的としたワークショップ等実際に参加させてもらい、子どもと保護者相互への介入の仕方を、計画から実行までのマネジメントと共に習得する。

ストリートファミリーの母親達へのワークショップに参加

UNICEF との洪水発生時における子ども保護に関する会合に出席

ケソン市内のスクワッター地域を訪問しインタビューを実施

ストリートチルドレン支援に関する NGO 合同の会議出席

バランガイ(行政最小単位)の BCPC(Barangay Council for the Protection of Child)研修(3日間)参加
JICA フィリピン主催のセミナーにおいて参加型評価の手法を学ぶ

[2月]ストリートチルドレン支援事業の Implementation

家族の自助努力ではどうしても学校に通えない子どもへの、KOPF の既存の事業(奨学金、補習授業等)の提供に際して、KOPF がどのような手法で、子どもたちへ実際に支援を届けているのか実行内容を学ぶ。また、KOPF が行っている Alternative Learning System、Non-formal Education といった、学科習得中心の事業ではなく、子どもたちの生きる力を高めるような効果的な取り組み、アクティビティーに積極的に参加させてもらい、貧困状態にある子どもたちへのエンパワーメント手法を、それらの授業に参加させてもらいながら学ぶ。

約 600 家族への大規模な食糧配布事業の様子を観察

AI(Appreciate Inquiry)ワークショップ見学

元ストリートチルドレンを保護しているシェルター訪問

フィリピンの歴史、農村の現状について理解を深める

[3月]ストリートチルドレン支援事業の Evaluation

当事業の実施期間は 2010 年 12 月から一年の予定で、3 月以降も続けられていくが、3 月には事業の中間報告が行われるため、その全ての過程に参加し、事業の評価方法を学ぶ。どのような方法で評価しているのか、どのような点を特に評価するのか、評価結果をどのように 3 月以降の事業につなげていくのが観察する。

フィリピン、アメリカ、日本の軍事関係について学ぶ

政府と NGO の協力関係についての会合に参加

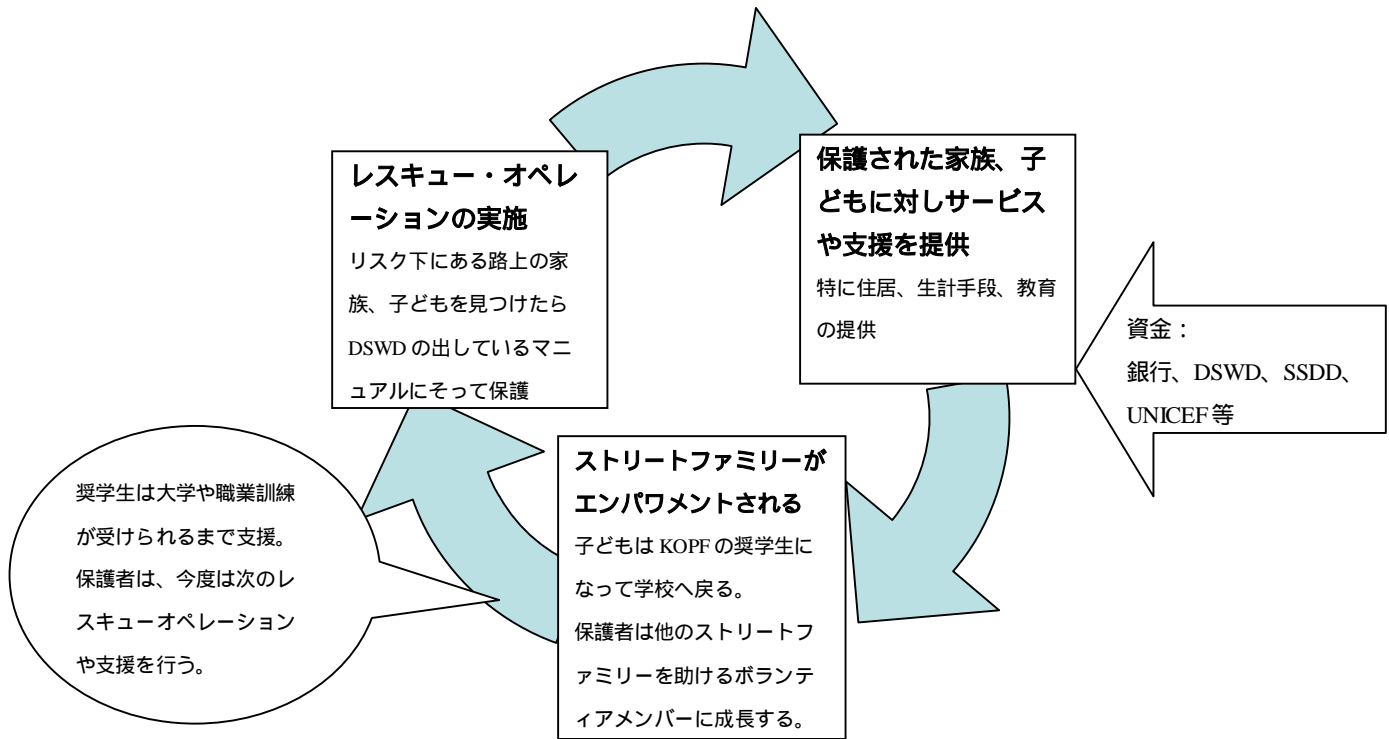
研修の成果：

(目標に対し達成できなかった内容がある場合は、その理由とあわせて報告してください)

1) 情報、人脈、資金源において持続可能な事業運営のあり方の一つを学ぶことができた。

まず第一に、事業を効率的かつ円滑に進めていくにあたって、民間、政府系、国際機関系と幅広いネットワークを持つことによって、情報(例:大企業の CSR による、貧しい家族への大規模な食料提供の件)、人脈、資金源などにアクセスすることが可能となることを学んだ。第二に、その結果、自団体の限りのある活動資金に左右されること無く、例えば KOPF は一度に 150 組の家族を支援していたように、一組でも多くのストリートファミリーを支援すること、子ども達にも公教育はもちろん大学卒業、職業訓練までの支援が提供が出来るといった、事業をさらに発展させていくことが可能になることを学ぶことが出来た。ネットワークに潜在する資源(情報、人脈、資金)というのは NGO 団体にとって、活動を発展させていく上で非常に重要であることを学ぶことができた。下記の図はそれを図式化したものである。

KOPFのソーシャルワーカー（今研修でのスーパーバイザー）によって行われているストリートチルドレン支援事業の構造。



流れとしては、る 1) Street Children を路上から保護し(レスキュー)、2) 親をまきこんで価値観教育やエンパワメント教育をおこない、3) 意欲の見られる親子には、積極的に働きかけを行って、子どもたちは学校に行かせ、親には路上でただ時間を過ごすのではなく、役割を与えることによって人格的育成を行う。4) その一方で企業や政府など既存の支援にアクセスし、5) それら資源を最大限に生かして、NGO の弱点の一つである資金不足を補って事業を発展させていく。このような持続可能な構造(ストラクチャー)を体系的に理解する機会を得た。この1)～5)、までの流れが KOPF が行っているストリートチルドレン支援の構図である。

2) 都市貧民と呼ばれるストリートファミリー、特に母親へのファシリテート方法、エンパワメント手法を習得した。

- KOPF のソーシャルワーカーは、フィリピン人 (UNICEF フィリピンやフィリピン大学、DSWD と各 NGO) が協働してフィリピン人のために研究された手法を、ストリートファミリーへのエンパワメントとして実践しており、それを実際に現地の人々と一緒に行う場に参加させてもらう中で、その技術を学ぶことができた。以下が主な手法の例である：

- ・ AI (Appreciate Inquiry)
- ・ ERPAT (Enhancement Reaffirmation Paternal Abilities Training)
- ・ Basic Psychosocial Interventions for Street Children

KOPF の優れたところは、一度の事業運営過程で約 150 人のストリートファミリー (子どもも含む) を保護し、それを小グループに分けて数回に分けてワークショップを重ねていく中で、特に

意欲とリーダーシップを示した保護者（主には母親達）を、今度は同じ境遇で今も過酷な生活を強いられているストリートファミリーとチルドレンをレスキューするメンバーとして育て上げ、その役割を任せていくことである。そうすることで、一人のソーシャルワーカーでは限界のある次のレスキュー・オペレーションがより効率的かつ規模も少しずつ増やして行うことができている点がとても印象的であった。

3) 他団体（NGO、政府系、教会系、ボランティアグループ）とのネットワークが強固になった。

フィリピンマニラ及びケソン市は非常に多くの団体が活動しており、そのネットワークは複雑に絡み合っている。今研修期間中は幅広く様々な行事に集中的に参加が出来、今後弊団体の事業をさらに発展、改善させていくための可能性を広げられたことは大きな収穫であった。

達成できなかった点：

フィリピンでは英語が公用語となっているが、実際は多くの人々が主にタガログ語を日常使用している。タガログ語が十分ではなかったために、研修、会議、講義での議論内容を全て理解できたわけではなかったことは残念なことであった。また KOPF 受益者へのインタビューも言葉の壁のために深く行うことはできなかったのも心残りであった。

やはり一年のタイムスパンで計画が組まれている事業について、3か月という限られた期限の中で全て把握することはできなかった。この点に関しては今研修終了後も、スーパーバイザーとは連絡を取り、フォローアップを行う予定である。

本研修成果の自団体の組織強化や活動の発展への活用方針、方法：

- 1) KOPF の現場での活動のノウハウの中で、ソルトの事業地であるパヤタスおよびカシグラハンの子どもや保護者へ応用できる項目をまとめ、整理し、その上で他のスタッフと、報告会や学習会、ワークショップ等を通して共有を行う。研修会、ワークショップ等で使用された PPT や資料は全て持ち帰りソルトスタッフと共有する。
- 2) ソルトのライフスキル事業担当職員（日本人、フィリピン人両方）の能力強化のため、団体内の研修プログラムを作る。
- 3) 上記 1)、2) に基づいて、ソルトのライフスキル教育を立案し、その後の実践を通して応用、改定を行い、事業を運営・管理する。

本プログラムや事務局側に対する提案、要望等：

大変有意義な研修であった。もし可能であれば、同様の研修を受ける機会が、現地スタッフに対しても与えられることを望む。

その他：

（総合的に研修成果を理解するために、写真類、スタディ員が受入先機関に提出した報告書類等があれば、あわせて添付願います）



KOPF 事務局の外観



ストリートファミリーとの会合



スクワッターエリアは、路地を一本入ると、建て増し住宅が密集して太陽の光が入らず、うす暗いことがわかる。しかし、その環境とは対照的に、どの地域を訪問しても子ども達の人懐っこい明るい笑顔に出会うことができた。

以上